

2 家計収支および貯蓄・負債

《家計収支》

家計収支は平成 21 年 9 月～11 月に実施されたものである。

(1) 収入

1 世帯当たりの年間収入（平成 20 年 12 月～平成 21 年 11 月）は、7,346 千円（全国平均は 6,482 千円）で、全国で 2 番目に高い。

(2) 支出

1 世帯当たりの 1 か月平均消費支出は、313,012 円（全国平均は 300,936 円）で、全国で 1 2 番目に高く、消費支出の内訳は全国とほぼ同じで、このうち食料費の占める割合（エンゲル係数）は 23.7%（全国は 23.0%）となっている。

福井県の 1 世帯当たり年間収入と 1 か月の平均消費支出の推移、1 世帯当たり 1 か月の消費支出の費目別割合の推移、また、1 か月平均消費支出の内訳を平成 21 年結果で全国と比較したものは図 1・図 2・図 3 のとおりである。

図1 1世帯あたりの年間収入と1か月平均消費支出

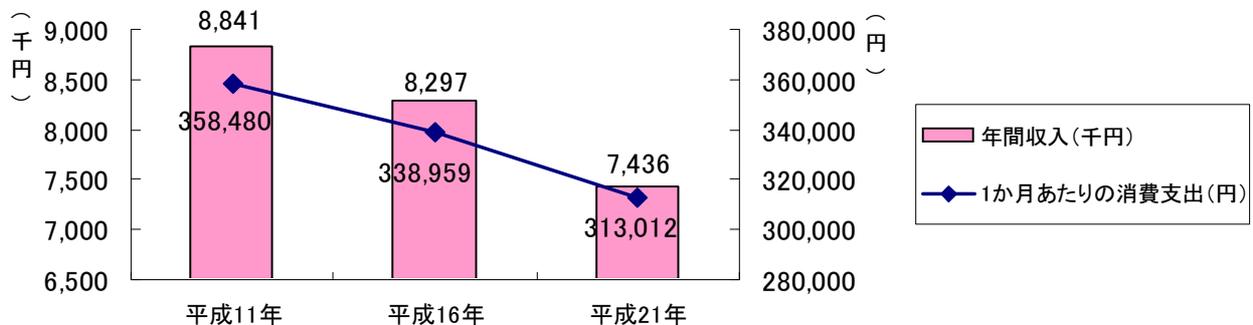


図2 1世帯あたり1ヶ月の消費支出の費目別内訳推移

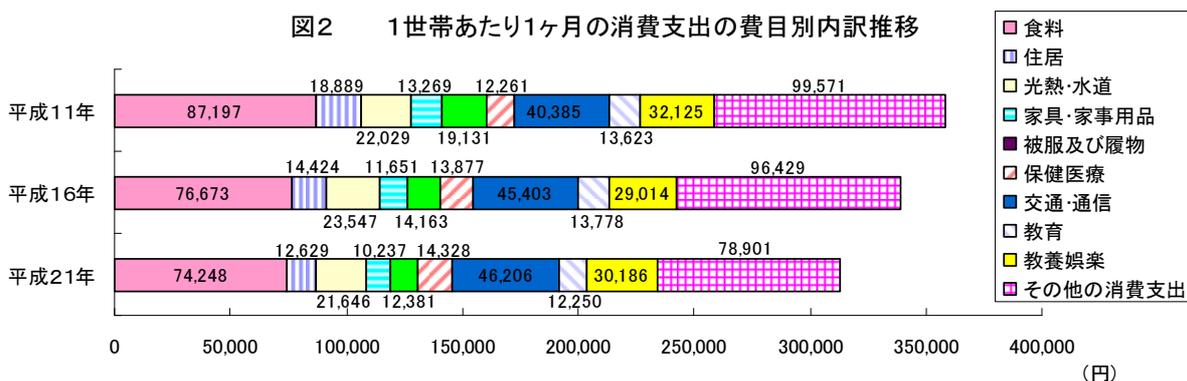
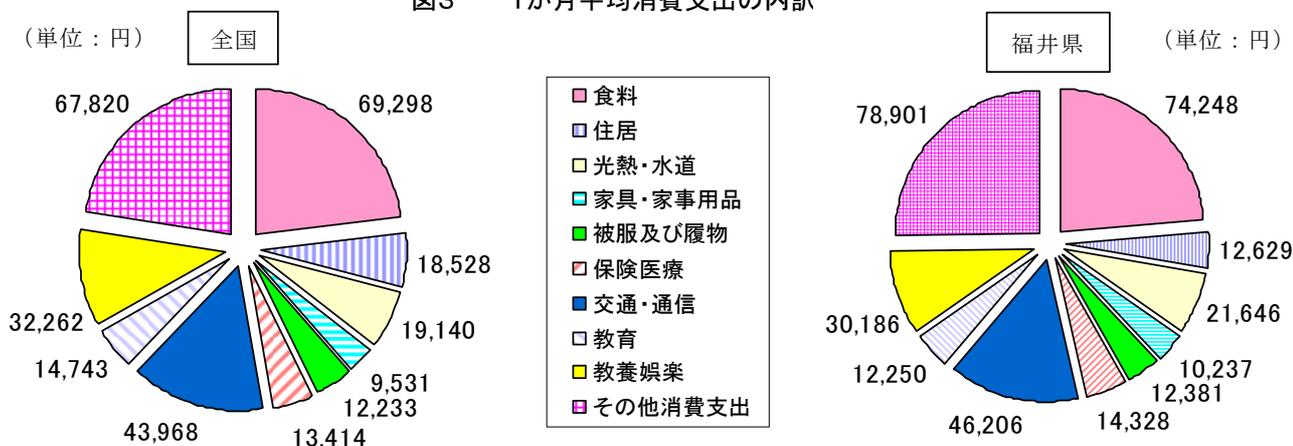


図3 1か月平均消費支出の内訳



全国的に世帯の年間収入は減少し、1か月当たりの消費支出も減少している。

福井県の消費支出の費目別内訳の推移でも、収入、支出とも減少しているが、保健医療への支出と、交通・通信への支出は増加している。

1か月当たりの消費支出の内訳を全国と比較した結果から、福井県は住居と教育への支出が少なく、食料と交通・通信への支出が多くなっている。

また、世帯の年間収入の分布状況と、年間収入階級別に1か月当たりの消費支出の内訳を比較すると、図4・図5のとおりである。

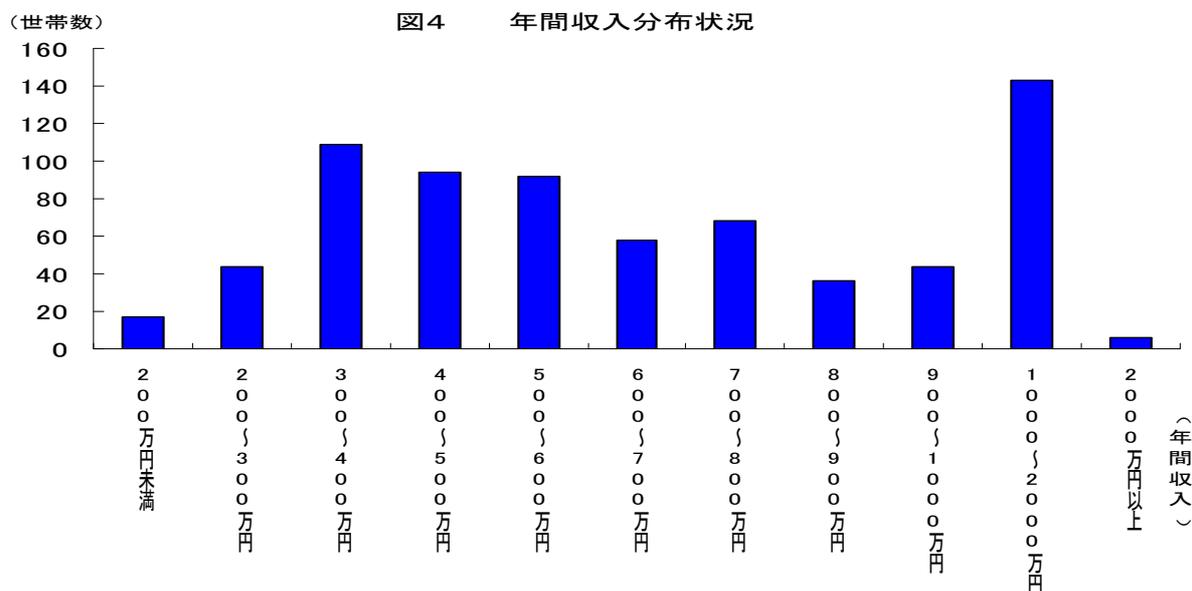
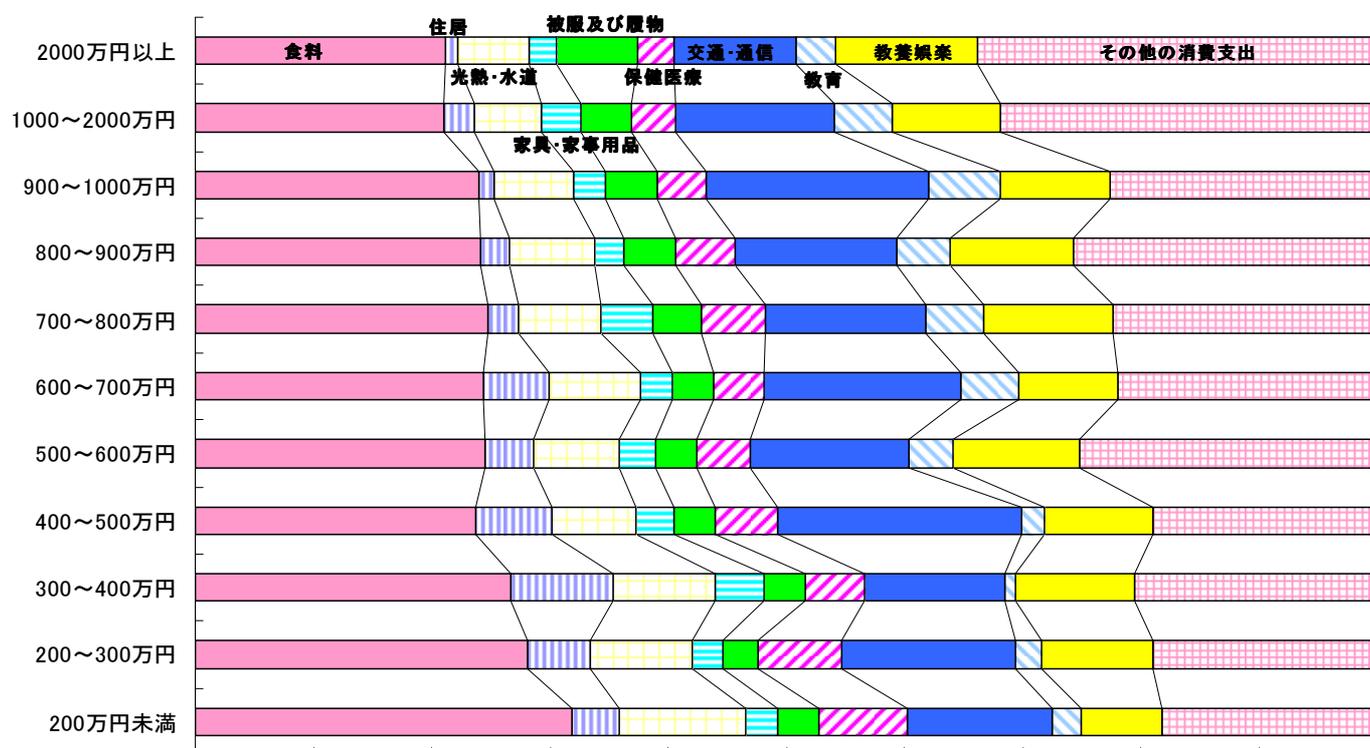


図5 年間収入階級別の1ヶ月の支出割合



年間収入階級別の1か月の支出割合をみると、400万円以下になると、エンゲル係数が高くなる。

表1 年間収入階級別の1か月の支出金額 (単位:円)

	200万円 未満	200~300 万円	300~400 万円	400~500 万円	500~600 万円	600~700 万円	700~800 万円	800~900 万円	900~1000 万円	1000~ 2000万円	2000万円 以上
食料	47,067	53,844	59,883	63,359	70,989	70,026	75,129	83,106	84,032	94,940	132,439
住居	5,948	10,001	19,320	17,229	11,797	15,900	7,687	8,520	4,720	11,516	7,091
光熱・水道	15,818	16,435	19,184	18,884	20,951	21,966	21,330	24,619	23,317	25,570	37,922
家具・家事用品	4,073	4,903	9,340	8,705	8,792	7,858	13,082	8,454	9,871	14,819	14,194
被服及び履物	5,257	5,686	7,734	9,206	10,126	10,112	12,536	15,195	15,395	19,409	43,108
保健医療	10,950	13,592	11,350	14,061	13,124	12,155	16,562	17,212	14,395	16,811	19,158
交通・通信	18,180	28,094	26,416	55,175	38,741	47,730	41,020	47,140	65,946	60,536	65,040
教育	3,541	4,248	2,236	5,183	11,113	13,949	14,754	15,598	21,299	21,834	21,124
教養娯楽	10,173	17,881	22,434	24,429	30,656	23,954	33,333	35,922	32,447	41,306	74,663
その他の消費支出	26,928	36,324	45,899	50,406	72,930	62,853	67,666	88,207	79,393	143,417	212,258

《貯蓄・負債》

貯蓄・負債については平成21年11月末現在で集計したものである。

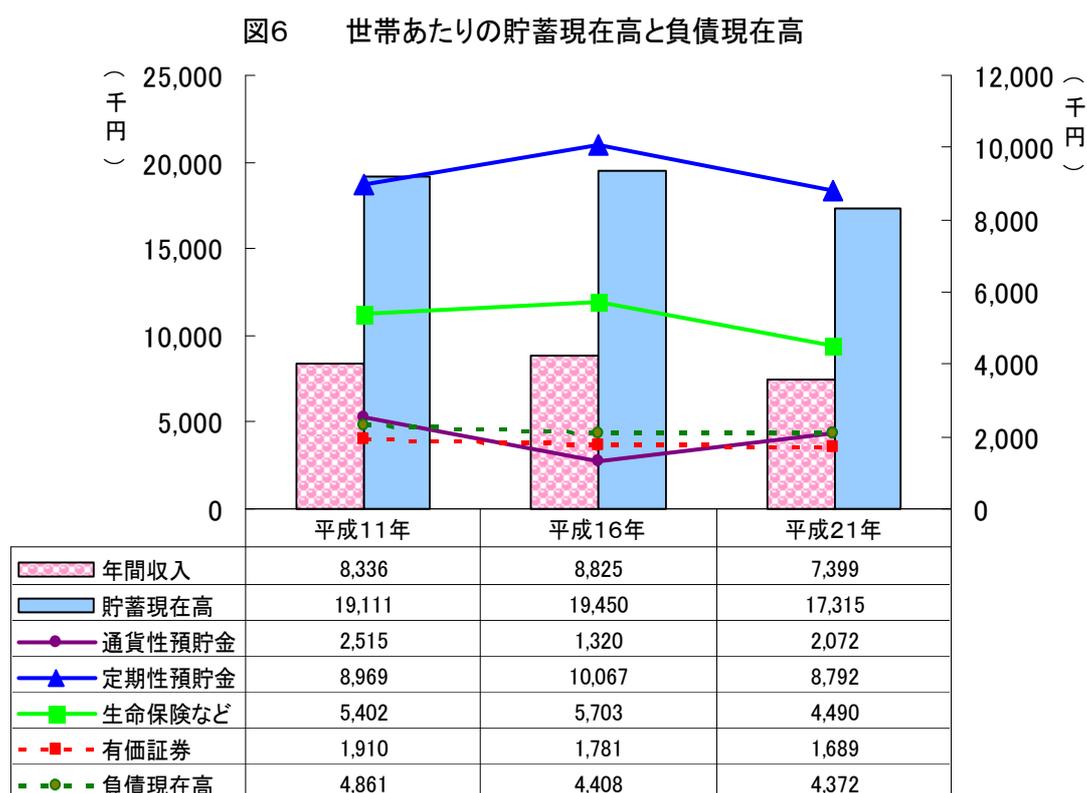
(1) 貯蓄

1世帯当たりの貯蓄現在高は17,315千円（全国平均は15,208千円）で、内訳は定期性預貯金が50.7%、生命保険などが25.9%、通貨性預貯金が11.9%、有価証券が9.7%となっており、全国で10番目に高い。

(2) 負債

1世帯当たりの負債現在高は4,372千円（全国平均は5,433千円）で、内訳は住宅・土地のための負債が85.2%となっており、全国で32番目である。

福井県の1世帯当たりの貯蓄現在高とその内訳、また負債現在高の推移は図6のとおりである。



年間収入とともに貯蓄現在高も減少しているが、負債現在高も減少している。

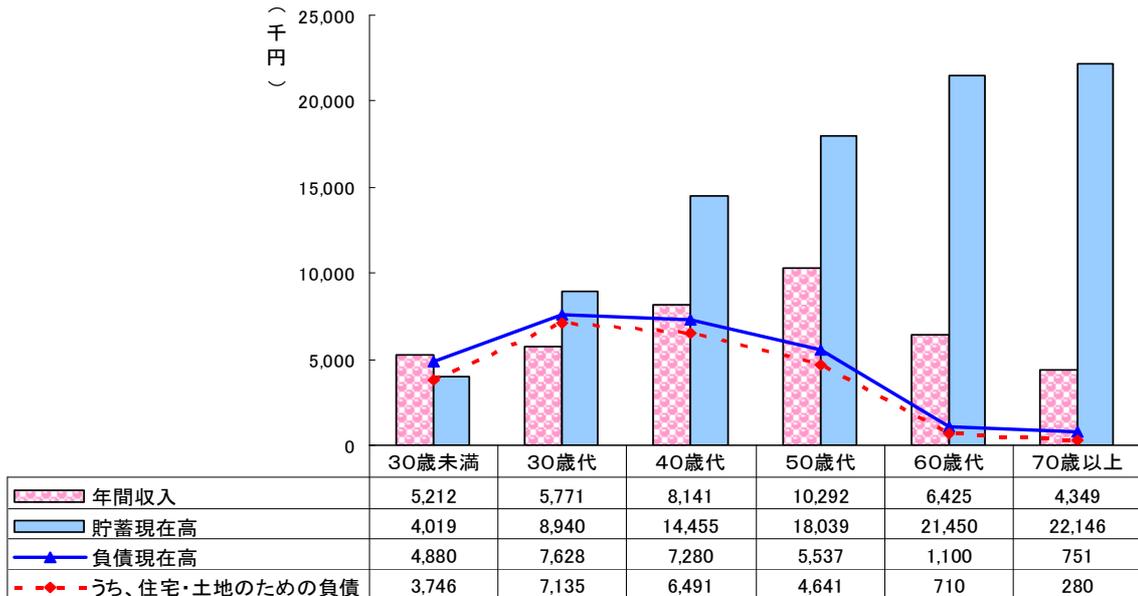
貯蓄現在高の内訳で、定期性預貯金、生命保険など、有価証券ともに減少しているが、通貨性預貯金は前回調査（平成16年）より大きく増加している。

年齢別の貯蓄・負債

福井県の1世帯当たりの貯蓄・負債の状況を、世帯主の年齢別にみると、30歳未満では負債が貯蓄を上回るが、30歳代以降は貯蓄が負債を上回る。

また、貯蓄現在高は年齢とともに増加し、70歳以上の世代が最も多くなり、一方、負債が最も多いのは、30歳代となる。(図7)

図7 年齢別にみた貯蓄・負債の状況



また、世帯の年間収入階級別に1か月当たりの消費支出と貯蓄現在高、負債現在高を見ると、図8のとおりである。

図8 年間収入階級別の消費支出と貯蓄現在高・負債現在高

